

富山市のSDGs普及展開等に関する取組状況について (令和5年度下半期及び令和6年度上半期)

市では、平成30年6月に、国からSDGs未来都市に選定されて以降、これまで「知る」、「理解する」、「実践する」の3つの区分で、普及の取組を展開してきている。

昨年度から、「より理解を深める」・「実践する」の内容に重点を置き、特に、中小企業や小中学生、ユース世代向けの取組拡大を図っている。

1. SDGsを「知る」

(1) 新聞紙面や専用ウェブサイト等を活用した情報発信(継続)

北日本新聞の朝刊を活用し、「富山市SDGsマンスリーニュース」と題して、市内の企業・団体等の取組事例やニュースを紹介した(R5.9月からR6.3月にかけて月1回)。※参考資料1参照

また、専用ウェブサイト等を通じて、「富山市SDGsサポーター登録制度」の周知を行った。



新聞での事例紹介



専用ウェブサイト



「SDGsサポーター」の登録者数(累計)

2. SDGsを「理解する」・「実践する」

(1) 「(企業・学生向け)SDGs推進コミュニケーター」養成講座の開催(R5新規)

市では、令和2年度からSDGsを職場や地域等で広める人材を養成するため、「SDGs推進コミュニケーター養成講座」を開催しており、令和5年度は、一般向けに加え、企業及び学生向けの講座を新たに設定し、計3回開催した(R5.9.24、10.20、11.11)。※R5年度:44人認定

企業向けの講座では、市とSDGsの推進に関する包括連携協定を締結する三井住友海上火災保険(株)が講師を務め、参加企業が自社の取組を数値化し、SDGsを進める上での強み・弱みを分析した後、今後の取組を検討するワークショップを行った。



講座開催時の様子(Sketch Lab)



認定証



SDGs推進コミュニケーター認定数(累計)

(2) 「中小企業発展のためのSDGsセミナー」の開催(R5新規)

市と包括連携協定を締結する第一生命(株)が講師を務め、中小企業が経営にSDGsの視点を取り入れて、経営課題を解決する方法を学ぶ、セミナーを開催した(R6.1.30)。

本セミナーでは、第一生命(株)が開発、制作した「SDGsガイドライン」に沿って、「学ぶ・調べる・行う」の3段階で取り組むべき内容や、「SDGs洗い上げシート」の活用方法について説明を受けた。※参加者数:20社22人



中小企業向けSDGsガイドライン(第一生命)

(3) 中小企業向け「2050カーボンニュートラル体験型セミナー」の開催及び中小企業の脱炭素化に向けた伴走支援(R6新規)

市内の中小企業等を対象に、脱炭素化に向けた取組を推進するため、カードゲーム「2050カーボンニュートラル」の体験や、県内企業の省エネに関する取組事例の紹介、参加企業同士が意見交換を行うセミナーを開催した(R6.7.30~31)。※セミナー参加者数:16企業・団体23人

また、今後は、セミナーの参加企業に対して、脱炭素化に向けた「省エネルギー診断」や、「脱炭素経営計画の策定」などの支援を実施する。※伴走支援予定数:4企業



セミナー開催時の様子



「チームとやまし」のチーム登録数(累計)

(4) 「中小企業向けSDGs先進企業ミートアップツアー」の開催(R6新規)

富山市SDGsサポーター登録企業でもあり、SDGsを経営理念に取り入れている「リコージャパン(株)富山支社」と連携し、中小企業を対象に、同社がDタワー内のオフィスで実践しているSDGsの取組の見学や、ビジネスマッチングを行う交流会を初めて企画、開催した(R6.8.21)。

当日は、同社の社員(SDGs推進コミュニケーター)から、ゴール8「働きがい」を意識したフリースペースの設置や、社内で共有化しているエコバックの使用方法などについて、説明を受けた。

※参加者数:12社19人



セミナー開催時の様子

(5) 「富山市SDGsアクションミーティング」の開催（継続）

SDGsサポーターや推進コミュニケーターなど、SDGsへの関心が高い方を対象に、特定のゴール毎に関連したテーマを設定し、現場見学や課題、解決方法を深掘りする対話を3回開催した。

2回目の「地域食堂」をテーマとした回では、蛭川地区で地域食堂を実施している団体から、食堂の開設日は、「子どもに限らず、地域の多世代の人が交流する貴重な場となっている」などの説明を受けた。

(テーマ)

第1回 (R5.11) : ゴール7「エネルギー（小水力発電）」講師：富山国際大学 上坂教授

第2回 (R5.12) : ゴール17「パートナーシップ（地域食堂）」

第3回 (R6.1) : ゴール15「陸の豊かさを守ろう（野生動物との共生）」※参加者数:約40人



常西公園小水力発電所の見学(上滝地区)



地域食堂(調理現場)の見学(蛭川地区)

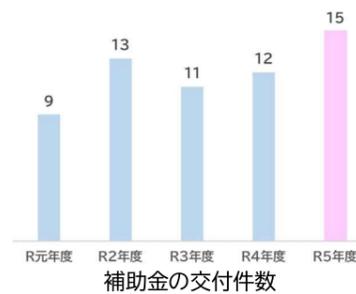
◎「地域食堂」の開設支援事業（R5～）※交付実績 R5:実績なし R6:2件(令和6年8月末現在)

市では、地域コミュニティの活性化やボランティア活動を推進するため、地域の子どもから高齢者まで誰もが参加できる食堂を開設する団体に対し、食堂の立上げ経費（200千円/箇所）及び、食材費等の初年度運営費（60千円）の補助を行っている。

(6) 富山市SDGs推進認定事業補助金による支援（継続）

SDGsサポーター（企業・団体）が実施する、SDGs普及啓発イベントや啓発ツールの作成事業などに対して、補助金による支援（補助率1/2・上限10万円）を行った。

※R5年度:15事業に支援



【R5支援例】

事業名：「インクルーシブ未来旅」（実施企業：(有)西部トラベル 協力：トヨタモビリティ富山(株)）

SDGs推進コミュニケーター（6人）が企画及び市内企業等と連携し、年齢や障害の有無に関わらず、楽しく市内を巡る日帰りツアーの事業に支援を行った。ツアーでは、MaaSアプリ「my route」を活用し、岩瀬のまち並み巡りやトヨタモビリティ富山(株)の店舗で次世代のりもの体験を行った。



補助事業の開催時の様子



クルーズ船に一行笑顔

(7) 「富山市SDGsウィーク」の開催（R6.1.27～2.4）

市民・企業等へのSDGsの普及啓発と、ステークホルダーとの連携の場の創出を目的として、5回目となる「富山市SDGsウィーク（全9日間）」を実施した。

令和5年度は、健康や教育、防災、農業、環境分野に関するセミナーや講演会のほか、SDGsシネマの上映会など、様々なイベントを毎日開催した。

※過去最多となる全25事業(市主催18事業、SDGsサポーター企業主催7事業)を実施

① 「富山市SDGsユースミーティング2024」(R6.1.27)

SDGsウィークのキックオフイベントとして、高校生と大学生が参加した「ユースミーティング」では、SDGsを起点に、自分の生きがいや今後の進路について意見交換を行った。

なお、本ミーティングでは、教育支援等に取り組む現役の大学生（SDGs推進コミュニケーター）がファシリテーターを務めた。

※参加人数:18人



② 「富山市SDGs推進フォーラム」(R6.2.4) ※フォーラム参加人数:約450人

SDGsウィークの最終日には、メインイベントとして、「スポーツとSDGs」をテーマに、元プロ野球選手の斎藤佑樹氏をゲストに迎え、トークやパネルディスカッションを行うフォーラムを開催した。

(プログラム構成)

- ・クロストーク（斎藤佑樹氏×藤井市長）、SDGs事例発表（樹なかたに印刷、堀川小学校）
- ・パネルディスカッション（藤井市長、加藤友里恵氏、中島祥元氏、新田英理子氏）



③ 「SDGs体験ワークショップ」の開催（R5新規）※参加延べ人数:279人

フォーラムの開催前には、会場の中ホール内において、SDGsサポーターの企業や高校生・大学生と連携し、市民参加型のSDGs体験ワークショップ（全8ブース）を開催した。

今回のテーマであった、市民に身近なスポーツと関連した「ボッチャ体験」のほか、バナーフラッグを再利用したエコバッグづくり、大学生が考案した「SDGsすごろく」などを実施した。



ボッチャ体験



中ホール・バナーフラッグ アップサイクル体験

(8) 小中学生向け・富山市版オリジナルSDGs学習ゲームの制作 (R6新規)

今年度、市では、SDGs普及展開用の新たなツールとして、SDGsを楽しみながら、学ぶことができる「富山市版SDGs学習ゲーム」を制作することとしている。

ゲームに、「富山市らしさ」を反映させるため、7月から8月にかけて、市とSDGs推進に関する包括連携協定を締結する企業(7社)及び市民団体、大学生などが参加し、特産品やまちづくりの取組などについて、アイデア出しを行うワークショップを2回行った。

また、五福小学校の児童5年生にも夏休みの課題として、アイデアを募集し、今後、来年2月の完成披露会に向けて制作を進めていく予定。



SDGs学習ゲームの富山市版カード(イメージ)

(9) 富山えごまと有機米を用いた学校給食の実施 (R5新規)

有機農業を推進するため、市が特産化を目指す「富山えごま」と有機米を学校給食(市内の小学校64校、中学校25校、幼稚園3園)に使用し、有機農産物の消費拡大と児童等への環境に優しい農業に対する理解の促進を図った。



給食時の児童への有機米の紹介

学校給食(有機米と富山えごまを使ったサラダ)

(10) 小中学校へのSDGs活動支援メニューの展開 (R6新規)

小中学校でのSDGsに関する学びの機会や活動の実践をより促すため、これまで企業が独自に発信していた出張授業等の情報(全18メニュー)を一元化し、今年度から学校に情報提供を開始したところ、現時点で、以下の5校で支援メニューを活用予定。

No	R6 予定校	内容(協力企業等)	関連するゴール
1	山室中部小	バナナペーパーで学ぶSDGsワークショップ(なかたに印刷)	1 貧困, 2 不平等, 12 持続可能な消費と生産, 15 陸の生態系
2	水橋西部小	障がい者スポーツ体験・講演会(あいおいニッセイ同和損害保険)	3 健全な働き場と経済成長, 4 質の高い教育, 10 人や国を超えて公正で包摂的な社会
3	上滝小	エコフラポットでSDGsを学ぶワークショップ(花・sou)	12 持続可能な消費と生産, 14 海の豊かさを守ろう, 15 陸の生態系
4	鶯坂小 速星小	小学生向け「防災及び水から学ぶ」ワークショップ(LIXIL)	6 清潔な水と衛生, 11 持続可能な都市とコミュニティ, 13 気候変動に具体的な対策を

(11) 小学生向けの海洋ごみの対策を学ぶ特別授業の展開(継続)

SDGsゴール14「海洋保全」に関連して、小学生に海洋ごみ問題に関心を持ってもらうため、プラスチックごみの海への流出を防ぐことを目的に、がめ川に設置しているオイルフェンスの見学や海水浴場でのマイクロプラスチック等のごみ拾いを行う特別授業を実施した。

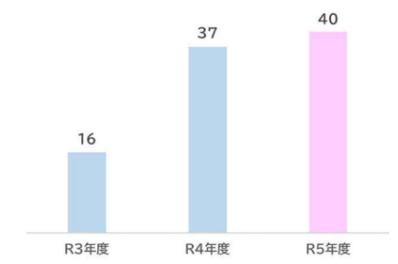
※参加人数:浜黒崎小学校・水橋西部小学校 4年生 約30人



3. その他のSDGsに関連した取組

(1) 富山市で学ぶ「SDGs修学旅行」の受入れ (R3~)

市のコンパクトなまちづくりや歴史、文化など、SDGsをテーマに地域の課題解決の手法を考える、富山市独自の13のプログラムを教育旅行用に開発し、県外から「探求型修学旅行」として多くの学校を受け入れている。 ※R5年度:受入校(40校・約2,000人)



SDGs教育旅行の受入学校数

(2) 官民連携による「フードドライブ」の合同実施 (R5新規)

市が(株)北陸銀行市役所出張所と合同で、「フードドライブ(家で余っている食品を持ち寄り、食品を必要としている福祉施設・団体に届ける活動)」を実施し、缶詰やレトルト食品など、市職員等が持ち寄った食品を富山市社会福祉協議会に提供した(R5.11.27~28)。

※集まった食品数:186個(約30.3㌦)



(3) 「富山市内における森林保全活動推進に関する連携協定」に基づく、民間企業の取組拡大

令和5年8月に締結した「富山市カーボン・オフセット運営協議会(富山市、婦負・立山山麓森林組合)」と日本海ガス(株)、同社に天然ガスを供給する(株)INPEXによる「森林保全活動推進に関する連携協定」に基づき、同協議会が創出したカーボンクレジットを活用し、令和6年1月から、日本海ガス(株)が(株)北陸銀行(市内11店舗)へカーボンニュートラルガスの提供を開始した。



(4) 「貨客混載事業」の実施 (R6新規)

ヤマト運輸(株)と連携し、本年4月から市営コミュニティバス山田八尾線で、乗客と宅配便などの荷物を一緒に運ぶ「貨客混載」の実証実験(1年間)を開始し、公共交通の空きスペースの有効活用による収益の改善を図るとともに、運送業界の運転手不足への対応や物流の効率化に伴うCO2排出量の抑制を図っている。



(5) SDGsに関するスクールミーティングの開催 (R6)

富山国際大学附属高校の生徒を対象に、SDGsに関するスクールミーティングを実施し、藤井市長による「SDGs未来都市」に関する取組紹介や、生徒との意見交換会を開催した。

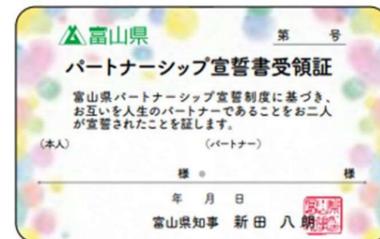
生徒からは、性的マイノリティの方々への取組などについて、市長に質問があった。**※参加人数:約280人**



(6) 富山県パートナーシップ宣誓制度との連携について (R5、R6)

富山県が、令和5年3月から導入した「パートナーシップ宣誓制度」について、市においても、県交付の宣誓書受領証の提示を受けることで、公営住宅への入居申込や医療機関での面会、病状説明の際に、家族や親族と同様の対応を行っている。

※宣誓件数 県内61件(令和6年8月末現在)



(7) 高等教育機関(富山大学・富山国際大学)との連携による取組 (R5、R6)

富山大学と連携し、市職員が教養教育総合科目(「SDGs入門」及び「富山の地域づくり」)や、理学部(地方創生環境学)において、SDGs未来都市としての取組に関する特別講義を実施した。また、富山国際大学とも同様に連携し、現代社会学部(環境政策論)で特別講義を行った。

(8) スマートシティ実現に向けた取組 (R5、R6)

産学官が連携して地域課題の解決に繋がる新規事業やビジネスモデルを創出する「富山市スマートシティ推進プラットフォーム」を設立した(令和5年11月)。

今年度からは、同プラットフォーム内に企業や市の関係所属等で構成するワーキンググループを設置し、事業化に向けた調査及び検討を実施している(7事業)。

※会員数185社(令和6年8月末現在)

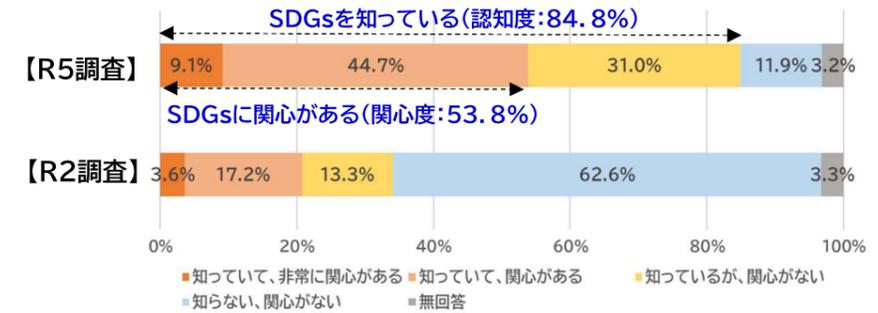


4. 各種のアンケート調査結果

(1) 富山市民意識調査結果 (R5実施)

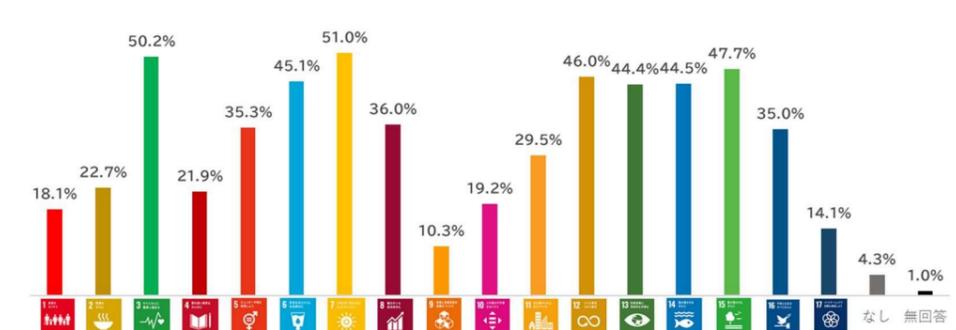
① SDGsの認知度・関心度

令和5年度に実施した市民意識調査結果によると、SDGsの認知度を示す「SDGsを知っている」人の割合は約85%となり、前回調査時(R2)の約34%と比べると大幅に増加した。また、「SDGsに関心がある」人の割合も約54%まで増加し、認知度及び関心ともに高まってきている。



② SDGsの17のゴールのうち意識して「行動」しているゴール

SDGsに関心がある方に、意識して「行動」しているゴールを調査したところ、半数以上が「ゴール7:エネルギー(51.0%)」、「ゴール3:健康と福祉(50.2%)」を意識して行動していると回答した。



(2) 企業向けSDGsアンケート調査 (R6新規)

本年8月に、市のSDGsサポーターに登録している企業(約300社)を対象に、SDGsに関する取組状況やニーズ等を把握することを目的に、アンケート調査を初めて実施した。

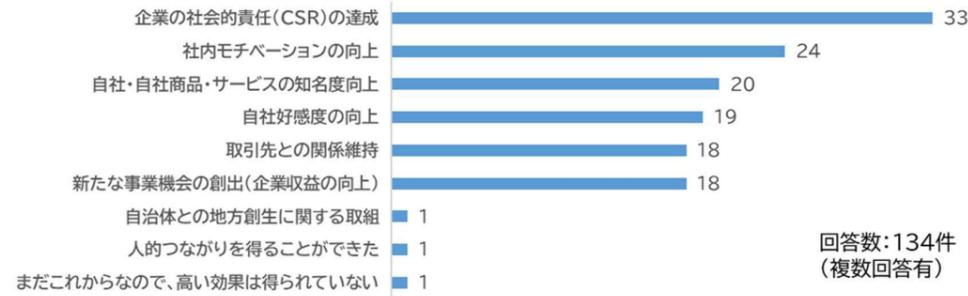
① 企業がSDGsに取り組んでいる主な目的

回答企業(56社)のうち、42社が「企業の社会的責任を果たすため」と回答した。また、5社が「新たな事業機会の創出(企業収益の向上)」を、SDGsの主な目的として回答した。



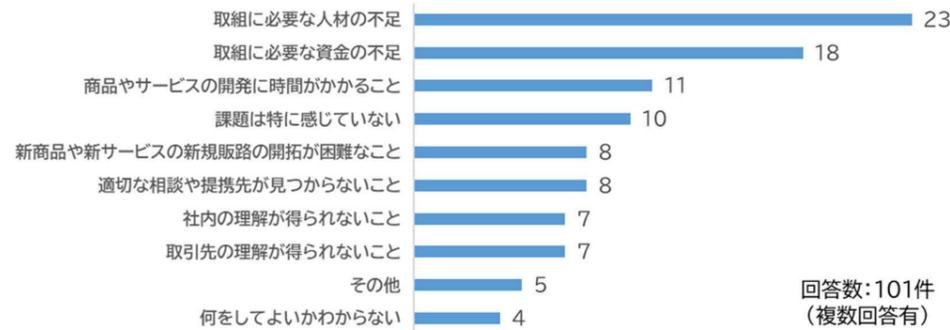
② 企業がSDGsに取り組んで得られた効果・メリット

回答企業（56社）のうち、40社が「SDGsに取り組む効果・メリットがある」と回答し、その内容として、「企業の社会的責任の達成」に次いで、「社内モチベーションの向上」を挙げた。



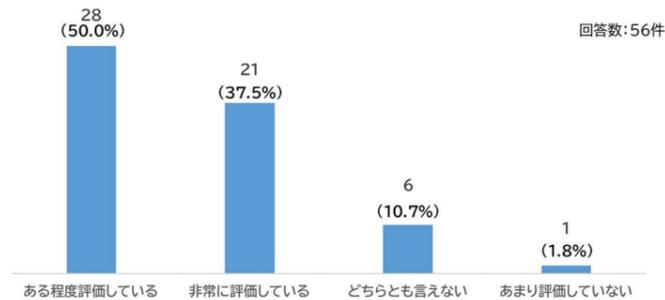
③ 企業がSDGsに取り組むに当たっての課題

課題として、「人材及び資金の不足」と回答した企業が多かった。



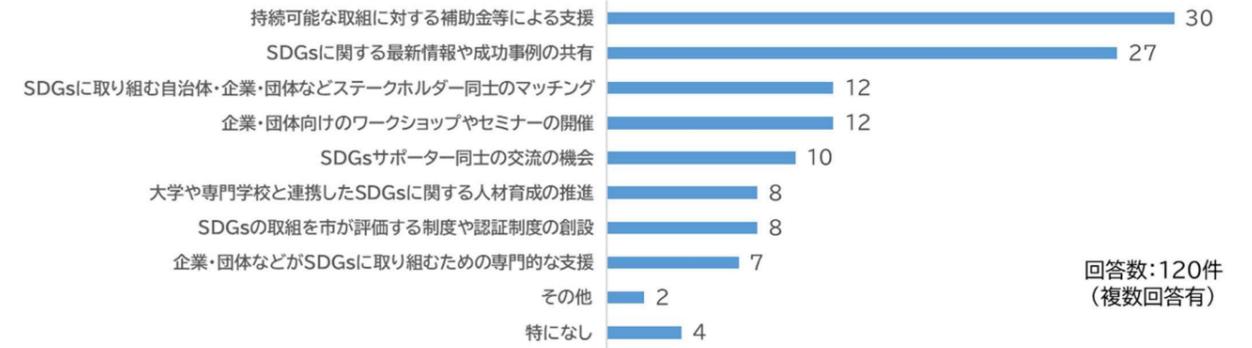
④ 本市のSDGsに対する取組への評価

回答企業（56社）のうち、「ある程度評価している」が28社（50%）、「非常に評価している」が21社（37.5%）となった。



⑤ SDGs達成に向けた取組のサポートとして本市に求めること

「補助金等による支援」や「SDGsに関する最新情報や成功事例の共有」を求める回答が多かった。



5. その他（本会議の委員から出された意見への取組状況）

分野	委員からの意見（年度）	市の取組状況	関連部署
公共調達	公共調達のプロセスに、SDGsの概念を取り入れてはどうか(R元)。	3年度から「建設工事競争入札参加資格審査」項目において、SDGsサポーター登録を加点する運用を開始した。	財務部
観光(教育)	SDGsの認知度の高さを活かし、近隣県から修学旅行や社会科見学を呼び込むのは有効ではないか(R4)。	3年度から実施している「SDGs教育旅行」について、旅行会社等に周知を図り、実施数を拡大している。	商工労働部
学校教育	小中高生がSDGsを体験できる情報について、学校への提示や仲介はできないか(R4)。	6年度から、企業等が小中学生向けに実施している、SDGs出張授業について、学校への情報提供等を開始した。	企画管理部 教育委員会
社会(子育て)	市の子育て支援について、更なるPRをすべき(R4)。	5年6月に「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行い、「こどもまんなか社会」の実現に向け、子育てに関する情報などを広く発信している。	こども家庭部
市民生活	市民生活において実践できるSDGsの行動について、分かりやすく周知を図るべき(R5)。	5年度のフォーラムテーマを「スポーツ」とし、市民が気軽に取り組めるスポーツとSDGsについて、理解を深めた。	企画管理部 市民生活部
中小企業支援	中小企業がSDGsをコストではなく、ビジネスチャンスと捉えるような啓発をすべき(R5)。	中小企業向けセミナー(R5)や、SDGsに先進的に取り組む企業を訪問するミートアップツアー(R6)を開催した。	企画管理部
社会(教育)	子どもや親が気軽に取り組むことができるSDGs教育を進めるべき(R5)。	親子で学び、体験できるSDGs、環境分野のワークショップを企画、実施した。	企画管理部 環境部
環境(資源循環)	サーキュラーエコノミーの観点も取り入れたまちづくりを行う必要があるのではないかと(R5)。	資源循環の取組として、6年度からプラスチック資源一括回収を開始したほか、生ごみの堆肥化による資源循環の新たな仕組みづくりを試行する。	環境部